

「出会う・つなぐ・変える」第12回（2014/7/3）レポート

青山キャンパス(VOD) 小野洋子（大学教員）

「関わる人全てが情報を共有できるような土台作りを」

かつて、遠矢先生が来られた乃木坂スクールは学会と重なってVOD視聴となってしまったため、今春の講座メニューを見た時から、ライブ受講できるこの日を一番楽しみにしていました。あ～それなのに、それなのに、またしても仕事に阻まれ、VOD視聴となってしまいました。ご挨拶できなくて、本当に残念です。

VODでは、気になるところを2度聞きして、自身の介護体験と比べながらじっくり視聴しました。動画コンテンツの紹介が始まってからは、「あ～、これが欲しかった」を何度連発したか分かりません。メールtoファックスの処方箋や診療情報提供書、記録の一元化、リアルタイムで医療者同士がつながる仕組みの数々は「夢のまた夢」と映りました。私の両親の在宅介護生活はこの1月に終わりましたが、この環境があればどれだけストレスが少なく済んだろうかと羨ましく感じました。

タブレットで操作方法を解説するリアル動画は、家族が大変助かりますね。実際に使う材料だから分かりやすい。父の抗生剤点滴の針を抜くのに、間隔が空いた時に細かな注意事項を忘れてしまって上手にできなかったことがありました。

以下に、記録作成の工夫2点について少し詳しく記します。

まず、カルテ作成の技についてです。訪問サービスは移動時間をいかに効率化することが鍵の1つと考えていた私ですが、遠矢先生の「潜在看護師とタグを組んだ当日中のカルテ作成」は目から鱗でした。がん患者サポート仲間の医師から「アメリカではディクテーションが当たり前」と聞いたのが14年前、日本でも医師が医師にしかできないことに専念できる環境が早く整えばいいと思っていましたから、やっとここまで来たのかと感慨深いものがありました。現場発信で、遠矢先生方式を日本中に広めていって欲しいと思います。そして、カルテ作成に関わる在宅看護師がコールセンターを担当するという機能拡張もできたらいいなあと思いました。在宅末期では、状態が悪化した時に服薬・排泄管理・水分補給等で家族は対応に悩むことが多く、医療者に「ちょっと聞きたいこと」が沢山できます。でも、緊急コールとは違って、多忙な訪問看護師さんに頻りに電話するのはためらわれます。そんな時、本人の情報を知っている看護師なら的確なアドバイスができたり主治医につなげることができるのではないのでしょうか。患者や家族がオープンカルテの読み方の理解を深めることにもつながると思います。

次に、診療サマリーの自動更新についてです。「これ、絶対必要！」と叫んでしまいました

た。支えるために病状を的確にとらえることは大切で、端的な情報記録が必要、遠矢先生の言われる通りで、しかもこれはサービス提供者だけではないと実感しています。

家族は病状と病歴を色々な人に何度も説明しなければなりません。外来受診、入院時ヒアリング、転院候補先との面談、在宅復帰時のケアマネ対応、在宅医療や福祉サービスの複数の提供者（事業者単位だけでなく担当者単位で）・・・、本当に大変でした。自分でワードの記録を作成していましたが、常にアップデートした状態にはできないし、状況に応じて必要な情報をピックアップして受診やケアカンファレンスの準備をするのは相当の労力がかかりました。そして、亡くなった後も相続手続きで「これまでの病状と受療内容の概要」の提出を求められるのです。患者・家族も正確な記録にアクセスできる仕組みの必要性を痛感しています。

日々の情報記録についても思うところがあります。我が家の「在宅介護ノート」には毎朝私と妹で「今日の状態と注意点・お願いしたいこと」を書き記しましたが、介護サービスの担当者は直近の情報しか目を通さず、前に書いたことと違う対応をされることが多くありました。デイサービスもヘルパーも事業者ごとの記録用紙があり、それぞれの記録紙との併用は現実的ではないのですね。訪問診療のカルテは見れなかったので、家族間で共有するにも、先生や看護師の話をメモしてノートに写したりメールしたり、かなりの時間を要しました。結局、ノート運用は労力の割に功を奏しませんでした。

電子カルテと診療サマリーを、家族も含む支え手皆が共有できる土台が必要だと思います。桜新町の近隣住民だけでなく、どこでも在宅が当たり前になる世の中になりますように。

そこで、患者・家族に見せるのは憚れる内容についてマスクすることは、私も賛成です。配慮のない表現で傷つけることを避けなければいけないからです。情報開示に反対な医療者は、申し送りたい重要情報（患者の取り扱い方・パーソナリティ・家族の事情等）が書けなくなることを理由にされますので、この棲み分けのノウハウがオーソライズされてゆき、当人（患者・家族）へ情報開示されるのが原則となる時代がくるよう切望します。

カルテの中で患者指導も行うとのお話がありましたが、患者・家族からも支え手皆に共有して欲しい報告事項が色々あるので、朝ケアで気になったことを入力するとその日の訪問担当者全員が見て、それに対するコメントがどこから（職場から）でも見れるといいなと思います。

会場に行けたら質問したかったことを3点列挙します。

- (1) どうやって、使い勝手の良い確かな無料アプリを見つけてくるのでしょうか？
- (2) カルテを患者・家族も見ることができるそうですが、read onlyの方が多いですか？
- (3) 情報開示に対する患者の同意について、診療の始めに同意書をとっていらっしゃると思います

が、患者側にも相手によってマスクして欲しい情報がありませんか？ サービスを受けてゆく中で発生した場合は、医療者側から察して聞いてくれますか？（例えば、患者とそりの合わない訪問看護師さんの交替を要望したら、その方に患者の生の声は見られないような設定）

IT がもたらす「効率性」と「より高度な連携」について大変勉強になりました。IT を活用することにより事務作業は減り、事務員が少なくてすむことが分かりました。

遠矢先生の結びの言葉にあったように、IT を駆使した在宅の取り組みがもっともっと広がることを願います。

医療有資格者でない私に何が出来るか、自分にできることを模索し、行動に移してゆこうとあらためて心に誓いました。

これからもご教示のほど、よろしくお願いいたします。

長くなってすみません。小野洋子